

郷土のカラマツを再び植えて育てる 主伐と再造林のすすめ



佐久の森林と林業
2020年2月発行 No.36



北相木村 約 70 年生のカラマツ



小島町 小島地蔵



佐久穂町町有林 2017 年



市場へ運ばれるカラマツ材



カラマツ梁桁材



佐久穂町立佐久穂小・中学校 2015 年

ONE NAGANO

みんなでひとつに がんばろう佐久

Working together to support one another

台風 19 号により被災した佐久地域の森林・林道の復旧に取り組みます

春は新緑に、また秋には黄金色に輝く美しい佐久地域のカラマツ林は、大半が戦後の拡大造林により植栽されたもので、現在は成熟した森林資源となっています。これら森林には、木材生産を始めとする林産物の供給のほか、県土の保全や水源のかん養、地球温暖化防止など、私たちの暮らしを支える多面的な機能があり、収穫時期を迎えたカラマツ人工林の「主伐と再造林」を計画的に進め、多面的機能の発揮と木材の利活用を図ることが大切です。

また、カラマツは佐久地域の気候風土に適した郷土を代表する樹種です。今後も安定的にカラマツ材を生産・利用するために、その特性を理解し、適地適木の考え方に沿った「主伐と再造林」を進める必要があります。